
巻頭言



人間看護学部 学部長

い たみ きみ わ
伊 丹 君 和

昨年の巻頭言では、開催されるであろう東京オリンピックのことを書かせていただいた。しかしその後、オリンピックの延期はもとより、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、世界中の日常が一変することとなったことは言うまでもない。医療現場において医師や看護師の皆さまが命と向き合い、日々闘っておられることに敬意を払うとともに、このような中でも学生の実習をお受けいただいていることに感謝するばかりである。

看護者は、対象となる人と心を寄せ合う中で、その人が心身ともに「健康」で安寧な生活が送れるよう支援する専門職である。「健康」については、1947年に採択されたWHO憲章で、「病気でないか弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること（日本WHO協会訳）」と定義されている。コロナ禍の今、多くの人々が通常ではない日常生活に疲弊し、心身の健康課題を抱えていることが予測される。すべての人々を対象に、その人の心身の健康課題を見逃すことなく速やかに解決できるよう実践研究を重ねていく必要がある。特に、感染予防のために隔離され、距離をとらざるを得ない人の観察と心身のケアは喫緊の解決されるべき課題であり、我々もできることから始めていかなければならないと考えている。

35代米国大統領のJ.F. ケネディ氏は、「過去と現在しか見ない人は確実に未来を失う」と述べている。未来に向かって世界中の人々が感染予防のために一致団結し、今年こそ東京オリンピックが開催されることを願うばかりである。